杏林堂薬局「第1回　美と健康の体験フェスタ」開催！

地域顧客にDgS・薬剤師の役割を存分に訴求

生活習慣病対策での「気軽に検査の必要性」確認

中部地区 特別レポート

6月30日、地元浜松市で初の生活者参加型健康イベント「美と健康の体験フェスタ」を開催した杏林堂薬局（本社静岡県）。同社は今年に入って、全社員参加の健康意識改革プロジェクト「S－1グランプリ」や独自の食提案を行う「キッチンカウンター」の実施に代表されるように、ドラッグストア（DgS）の地域での役割認知の向上、薬剤師や管理栄養士の職域拡大を目的とした新たな地域密着型の店舗スタイル確立に精力的に取り組んでいる。「地元還元」が主テーマの同健康イベントだったが、その催し一つひとつに地域生活者の持つ「DgSや薬剤師は自分に何をしてくれるのか」という根本的な質問への回答が隠されていた。

モノではなくDgSならではの地元還元を

現在、静岡県浜松市を中心に68店舗を展開する杏林堂薬局。創業は明治33（1900）年という「創業以来100年以上、浜松市民の方々には多大な恩恵を賜ってきた。常々それを当社ならではの形でしっかりお返しをしたいと考えていた。それが当イベントを開催した大きな理由。特に、モノではなく、当社ができる最良のもの、美と健康へのサポートを分かりやすい形で還元したかった」と、その開催理由を目的をそう話す。

約1000人が来場した今イベントの軸は、同社薬剤師や管理栄養士による測定機器を使用した各種健康チェックや栄養相談会、取引先関連メーカーによるブース出展が併催されていた。同じく、「ストレッチ」や「腰痛&肩こり予防」など目的別の体操教室も開かれた。いずれも同社の新事業である市民ランニングクラブ所属の専門コーチらが直接指導する本格的なもの。

また、測定機器で血圧や骨密度、体組成などを計測することは一般的となっているが、プラス同社管理栄養士が考えた「健康レシピ」の数々が合わせて提案されており、数値解説を受けた生活者が、それぞれに自身に適合したレシピ表を持ち返る姿はまさにイベントにはなく新鮮だ。

地元生活者に好評だった「血液検査コーナー」

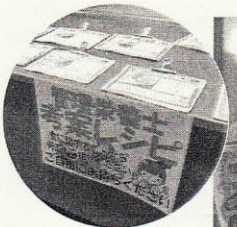
今イベントのコア提案と言えば「メタボリック・シンドロームを薬剤師と見つける」と題された森川則文氏（広島大学薬学部教授）の講演と、その森川氏が推進する薬剤師による「血液検査コーナー」であろう。

講演で森川氏は、地域の薬局やDgS、または薬剤師はヘルシーやビューティーという、全ての人たちが関心を持つ分野に関わる仕事をしている。いうなればライフセーイング、マネーセービングのバランスを図れるアドバイザー」だと結論付けた。さらに「今の自分の健康状態を知ってもらうことが健康予防には重要」と提言、それには、身近な薬局、薬剤師にメンテナンスしてもらう発想を持つこと、と来場者に訴えていた。

また「血液検査コーナー」（薬局ラボ）では、薬剤師の指導の下、約300人が参加するほどの活況振りだった。

この取り組みを統括した同社取締役調剤事業部本部長・前嶋克幸氏も「安全トラブルもなく検査を実施することができた」と振り返った上で、「参加された人からはごんな簡単にできるの？」杏林堂のどこに行けばいいの？」といった声が多く聞かれ、薬局店頭薬剤師を上手に使っての健康予防・増進の大切さやメリットを分かりやすく解説した上で「薬剤師はヘルシーやビューティー」「テービング講座」や骨密度、体組成などを計測することは一般的となっているが、プラス同社管理栄養士が考えた「健康レシピ」の数々が合わせて提案されており、数値解説を受けた生活者が、それぞれに自身に適合したレシピ表を持ち返る姿はまさにイベントにはなく新鮮だ。

管理栄養士考案の健康レシピも大好評



大盛況だった健康チェックコーナーと健康レシピ

「薬剤師の職域が拡大する良いチャンスであると同時に、継続実施を考えたい」と付け加えた。

実際、参加し業務に当たった薬剤師を見ていると、地元生活者と直接的な接触ができることが見られ、その充実振りが手に取るように分かった。

「薬局、調剤併設型DgSでの薬局ラボの必要性と可能性を強く感じた。特に生活習慣病を未然に防ぐ、もしくは重症化させないためにも早期発見が重要。生活者はこれを理解しているのも関やり取りから自然な笑顔と真剣な顔の両面が見られ、「参加者の反応は、地元生活者に健康で豊かな生活の実現だが、そのお手伝いを薬剤師が担うことができると認知されれば、もっと薬剤師の必要性を理解してもらえる」

同社が今、積極的に調剤併設型店舗の新設や既存店調剤室の随時リニューアルを推進しているのは、こうした背景と狙いがあるからだ。

来年も是非継続開催していきたい――。そう話す渥美社長も、今イベントにおける自社の地域密着提案の進捗度に確かな手応えを感じたようだ。

「地域密着型企業としてやるべきことは、地域生活者に健康で豊かな生活の実現だが、そのお手伝いを薬剤師が担うことができると認知されれば、もっと薬剤師の必要性を理解してもらえる」

同社が今、積極的に調剤併設型店舗の新設や既存店調剤室の随時リニューアルを推進しているのは、こうした背景と狙いがあるからだ。

来年も是非継続開催していきたい――。そう話す渥美社長も、今イベントにおける自社の地域密着提案の進捗度に確かな手応えを感じたようだ。

【本紙編集部＝磯　雅之】